

## 【講義】

強度行動障害とは

# 講義のねらい

この時間は、強度行動障害という状態像や有効な支援方法について概要を学びます。対象者を知り、効果的な支援の概要を理解することが目標です。この講義で知ってほしいことは、以下の5点です。

## 【ポイント】

- ① 「強度行動障害」と言われるひとがいること
- ② どのような人たちなのか
- ③ 強度行動障害は障害特性と環境との相互作用で引き起こされる
- ④ 支援の基本は障害特性を理解すること
- ⑤ 6つの支援のスタンダード

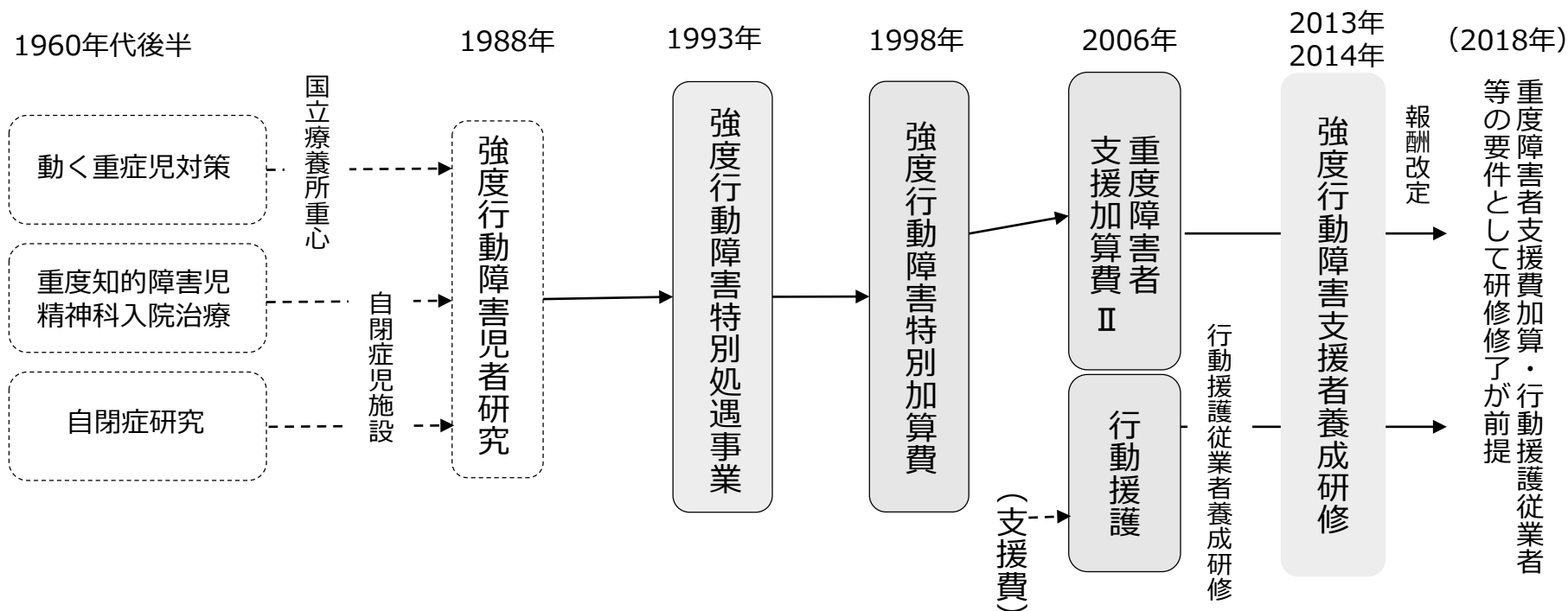
# 強度行動障害とは | 定義

- 自分の体を叩いたり食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど、本人の健康を損ねる行動
- 他人を叩いたり物を壊す、大泣きが何時間も続くなど、周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動
- 上記の2つの行動が著しく高い頻度で起こるため、継続的に特別に配慮された支援が必要になっている状態

障害福祉の仕組みでは「障害者支援区分」の「行動関連項目」において10点以上（最大24点）を強度行動障害と言う。  
（児童の判定や加算によって条件が異なります）

# 過去を振り返ると

強度行動障害のある者への対策は、30年近く前から検討されてきているが・・・



# 映像資料 | 強度行動障害

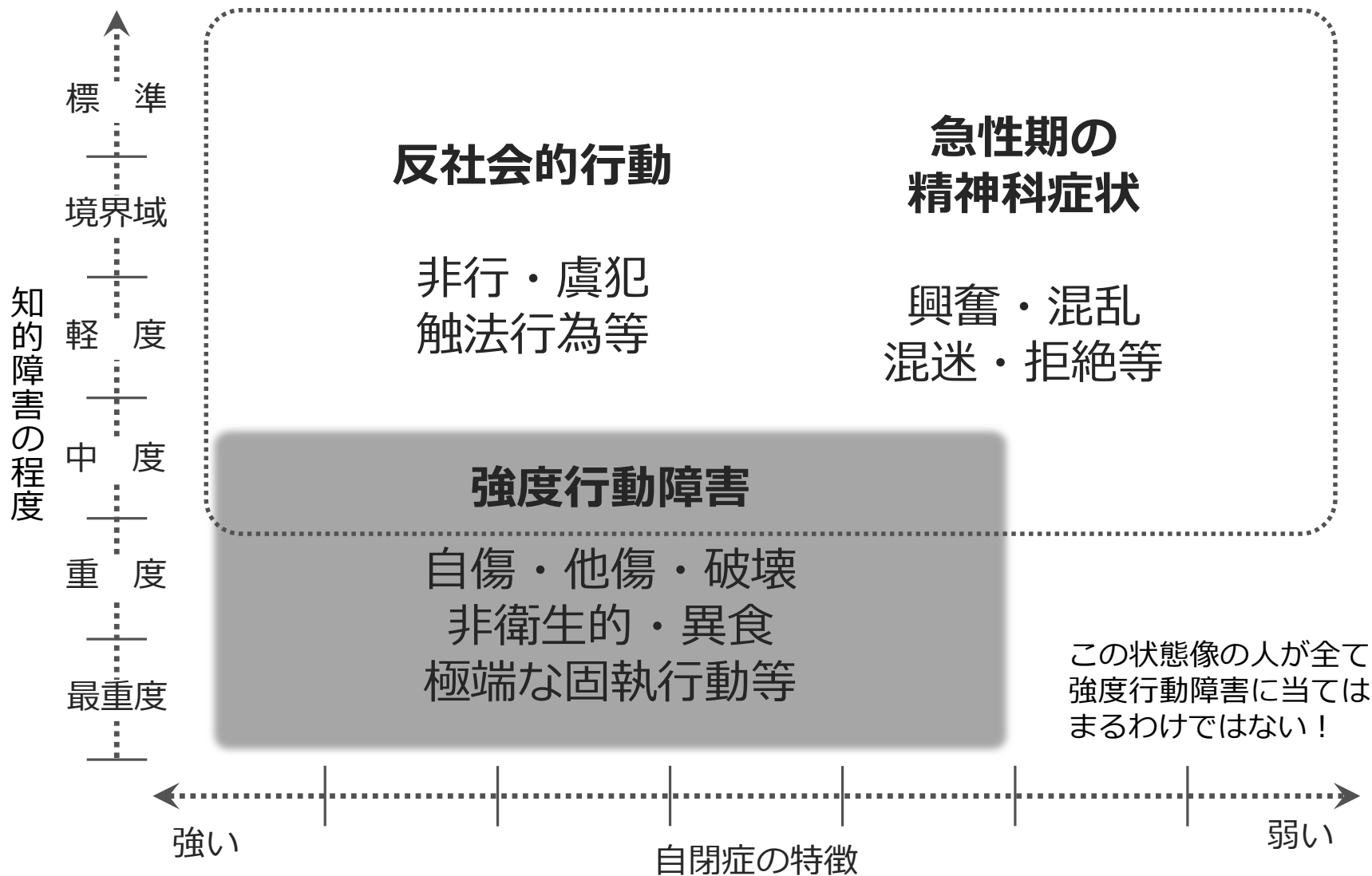


## 【事例の概要】

- 各事例、約 3 分
- 5 事例
- 行動障害が表れている時の映像
- 障害特性に即した支援の映像
- 行動障害が軽減した、あるいは普段の穏やかな時の映像

※映像資料（DVD）は各都道府県に 2 枚配布されています

# 強度行動障害になりやすいのは



# 知的障害とは | 定義

## 知的障害の定義

- 知的機能に明らかな制限があること
  - 適応行動に明らかな制限があること
  - 上記2つが発達期（概ね18歳まで）にあらわれること
- 
- 「知的機能の明らかな制限」とは、一般的に知能検査の結果（IQ）を参考にする（標準よりかなり低い状態であるかどうか）
  - 「適応行動に明らかな制限」とは、適応行動尺度（社会成熟度検査等）の結果を参考にする（標準よりかなり低い状態であるかどうか）
  - 日本では、都道府県・政令指定都市が知的障害（児）者に療育手帳（愛の手帳・みどりの手帳）の交付を行っている

# 知的障害とは | ICDの分類

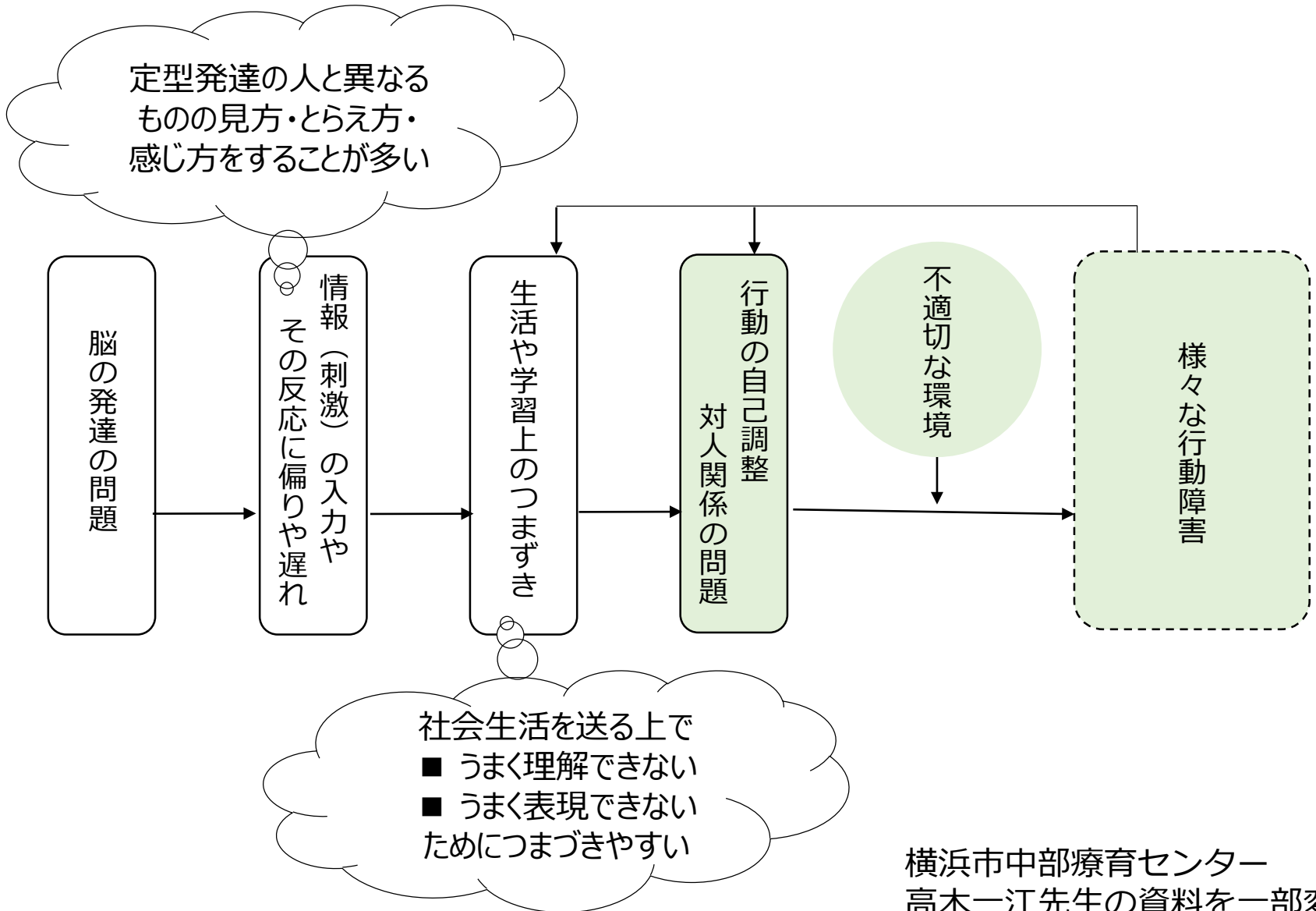
測定不能	20	35	50	70
最重度	重度	中等度	軽度	

IQの数字は目安

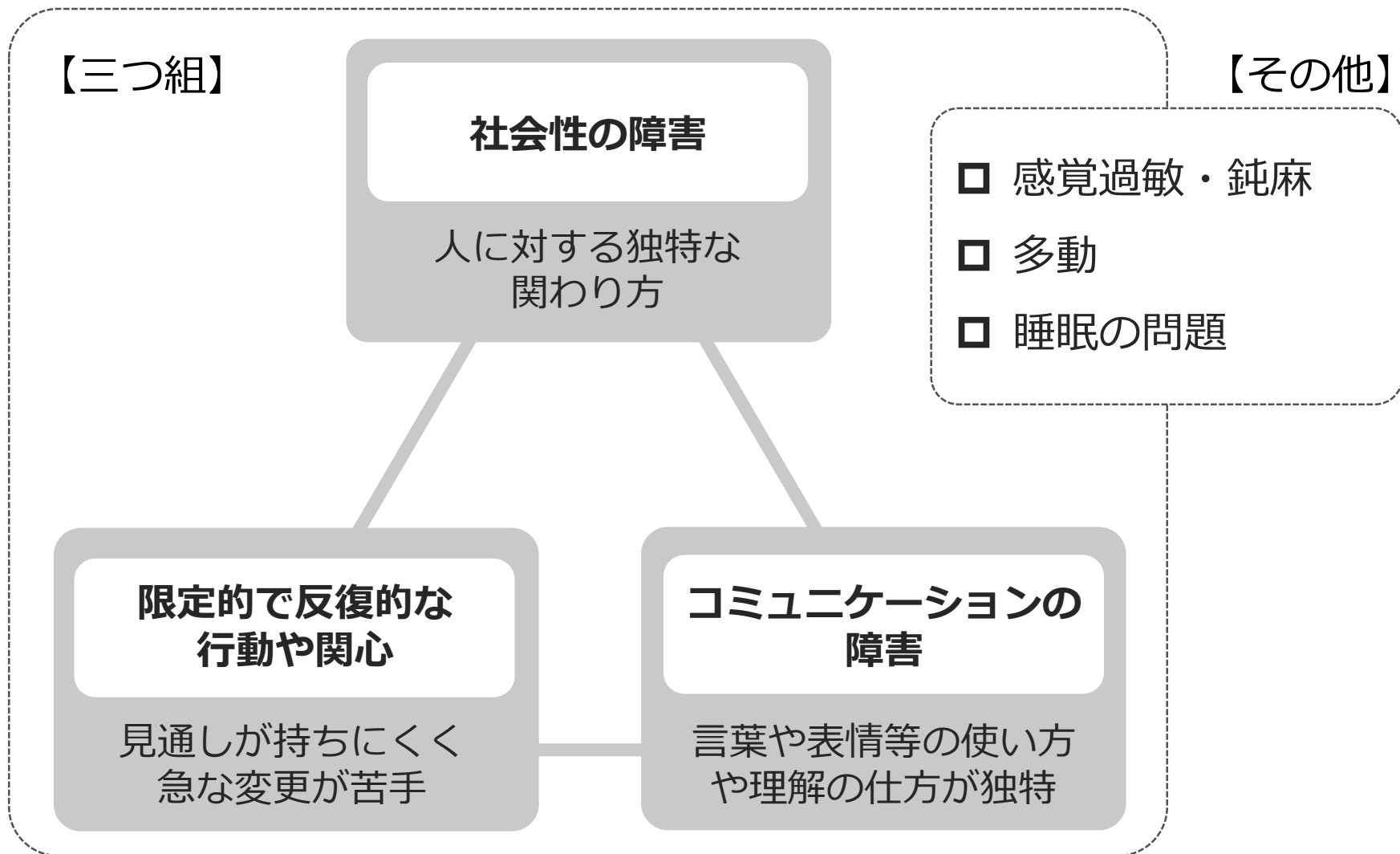
軽度 (Mild mental retardation : IQ 50-69) …B2 / IV
成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当。学齢時に学業不振が表面化する場合が多い。社会的な興味は年齢相応である。成人になってから、仕事に就き、良好な人間関係を保ち、結果的に地域社会の一員として周囲から評価されている事例が多く、そのような能力をもっている。
中度 (Moderate mental retardation : IQ35-49) …B1 / III
成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当。幼児期から発達の遅れが顕著であるが、基本的な身辺自立やコミュニケーション能力、そして読み書きについては一定レベルの学習は可能である。社会生活や就業生活に必要な支援の程度には個人差がある。
重度 (Severe mental retardation : IQ20-34) …A2 / II
成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当。12歳頃までに2語文程度を用いる。人生のどの時期においても、生活のさまざまな場面で他者からの継続的な支援が必要である。
最重度 (Profound mental retardation : IQ 20以下) …A1 / I
成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満。身辺自立や節制（がまん）、コミュニケーション能力、さらには外出・移動において相当の制限がある。



# 自閉症とは | 育て方が原因ではない



# 自閉症とは | 三つ組の障害



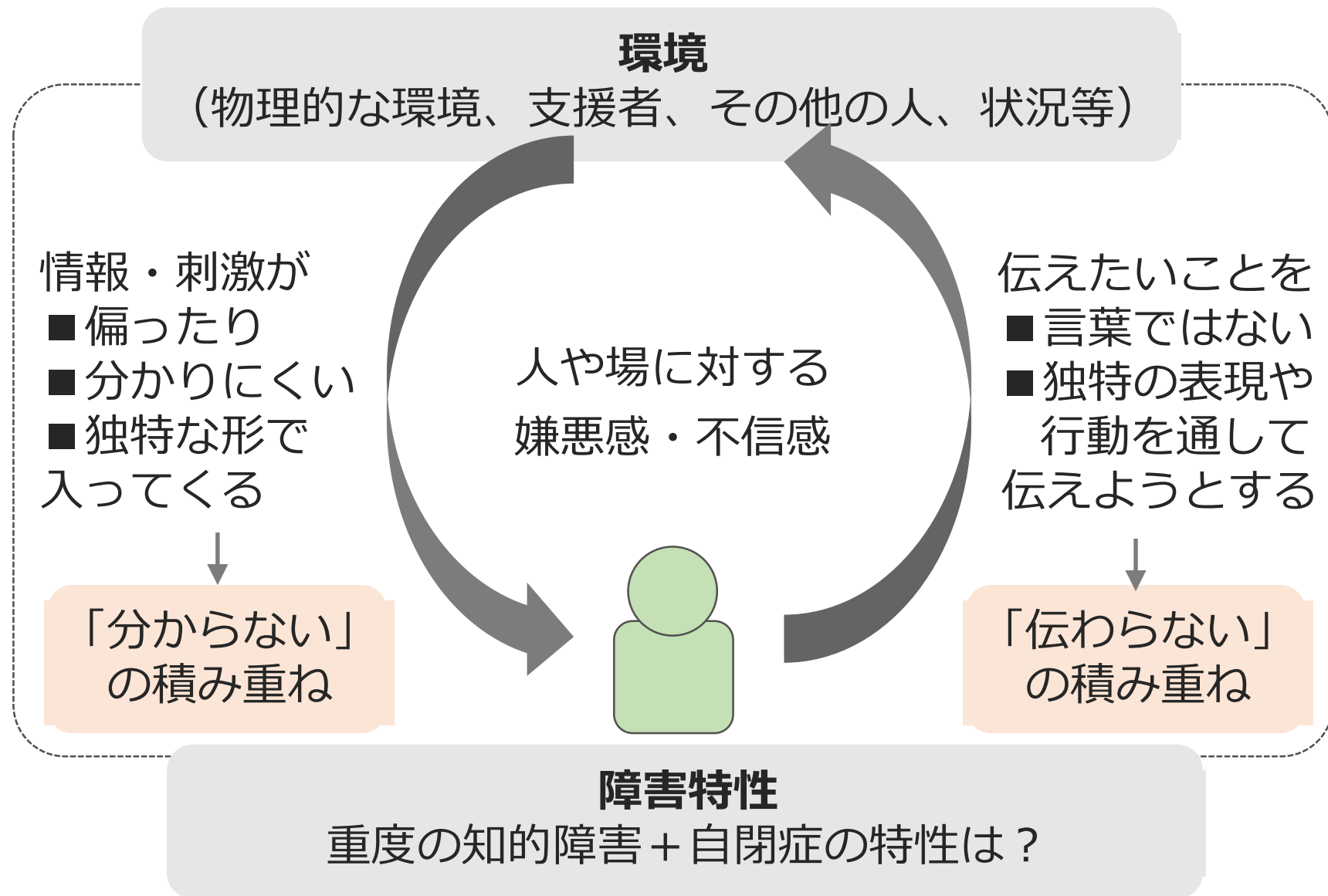
# 知的障害 + 自閉症の人の特徴例

- 知的障害や自閉症の特徴障害特性のサンプルです
- 障害福祉サービスを提供する私たちは、このような人たちが安心して過ごせる場を作ることが大切です（ほとんどこれしか出来ない）
- しかし、そのような場を作るには、まず一人ひとりの特性を理解する必要があります

## 想定される 障害特性

- ① ことばを聞いて理解することが苦手
- ② 表情や身振りを、誤って理解してしまう
- ③ 人や場面によって態度を変えられない
- ④ 他の人の興味あることに関心が薄い
- ⑤ 全体をとらえて関係性をつかむことが苦手
- ⑥ 別のやり方を探したり臨機応変な対応が苦手
- ⑦ 集団で一斉に行動することが苦手
- ⑧ 「いつ終わる」かを理解するのが苦手
- ⑨ 抽象的、あいまいなことの理解が苦手
- ⑩ 経験していないことを想像することが苦手
- ⑪ 特定の物事に強く固執
- ⑫ 記憶することが苦手
- ⑬ 発達（認知能力）がアンバランス
- ⑭ 特定の行動を何度もくりかえしてしまう
- ⑮ 期待されていることに注意が向かない
  - ・ 落ち着きがなく、その場にとどまっていられない
  - ・ 結果をかえりみず突然反応してしまう
- ⑯ 特定の感覚が過敏、または鈍い

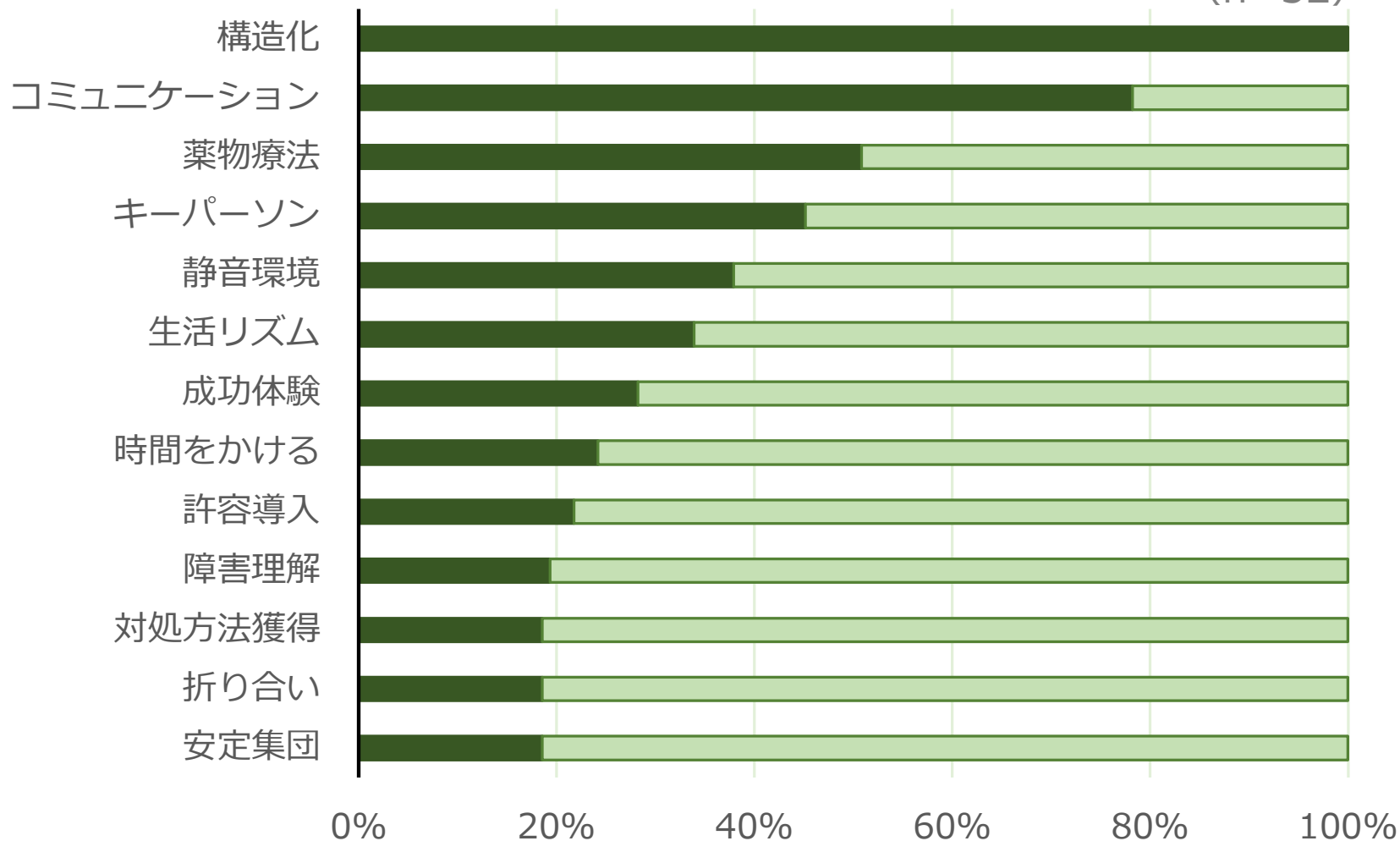
# どうして強度行動障害になるの？



**障害特性 × 環境要因 ⇒ 強度行動障害**

# 強度行動障害に有効な支援

(n=32)



(飯田, 2004)

# 共通する支援の枠組み

- ☑ 構造化された環境の中で
- ☑ 医療と連携しながら
- ☑ リラックスできる強い刺激を避けた環境で
- ☑ 一貫した対応をできるチームを作り
- ☑ 自尊心を持ちひとりでできる活動を増やし
- ☑ 地域で継続的に生活できる体制づくりを進める

# まとめ | 強度行動障害とは

## ⇒ 強度行動障害とは

- 自らの健康を損ねる行動／周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動／これらが著しい頻度で起こり特別な支援が必要な状態

## ⇒ 強度行動障害になりやすいのは

- 重度・最重度の知的障害／自閉症／思春期以降から成人期
- 上記の特性に対する配慮が不十分な環境との相互作用

## ⇒ 強度行動障害への支援にはスタンダードがある

- 一人ひとりの特性を理解しようとする事
- その特性に配慮した生活環境を作り出す事
- これまでの実践から、共通する支援の枠組みが存在する